

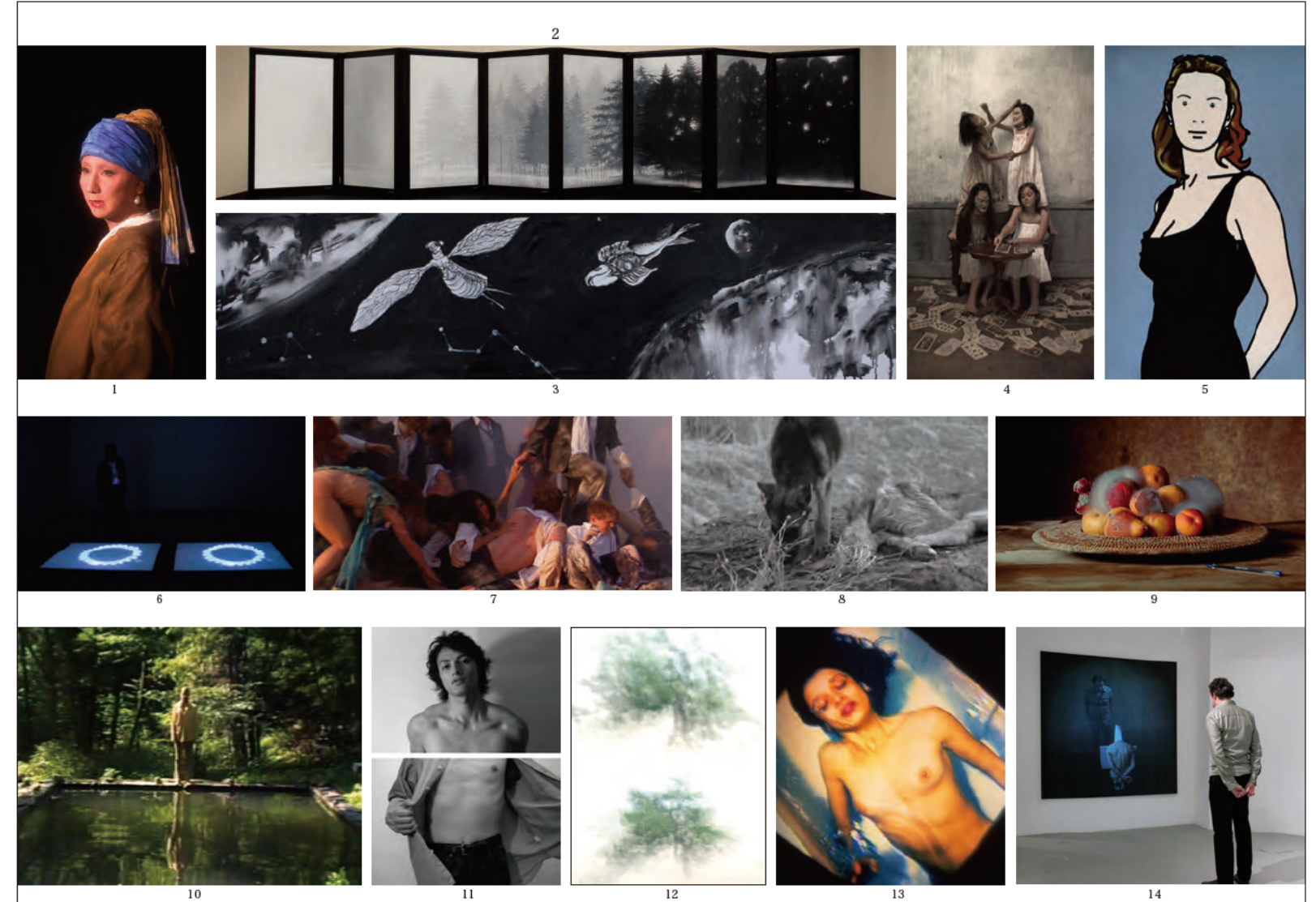


森村泰昌
 やなぎみわ
 千住博
 鷹野隆大
 小島千雪
 ブライアン・イーノ
 ジュリアン・オピー
 サム・テイラー＝ウッド
 イヴ・サスマン
 ヤン・フードン
 チウ・アンション
 ドミニク・レイマン
 ミロスワフ・パウカ
 ビル・ヴィオラ

液晶絵画展

2008年2月14日(木)ー4月13日(日)
 三重県立美術館

開館時間：午前9時30分ー午後5時(入館は午後4時30分まで)
 休館日：毎週月曜日・3月21日(金)
 観覧料：一般900(700)円・高大生700(500)円・小中生500(300)円
 ()内は20名以上の団体割引及び前売り料金。
 三重県立美術館メールマガジンの各最新号をプリントアウトしたもの、
 もしくは携帯電話の受信画面を示していただければ、
 前売り料金でご観覧いただけます。
 身体しうがい者手帳等をお持ちの方及び付き添いの方1名は観覧無料。
 主催：三重県立美術館・三重県・朝日新聞社・メーテレ
 特別協力：シャープ株式会社
 協力：ボーズ株式会社・エプソン販売株式会社
 助成：(財)岡田文化財団・(財)三重県立美術館協会



スタイル | モーション

液晶絵画展

- 1 森村泰昌 | フェルメール研究(振り向き絵画) | 2008年 ©Morimura Yasumasa, courtesy of MEM
- 2 千住博 | 水の森 | 2008年 ©Senju Hiroshi
- 3 チウ・アンション | 新山海経2 | 2007年 ©Qiu Anxiong
- 4 やなぎみわ | Fortunetelling | 2005年 ©Yanagi Miwa
- 5 ジュリアン・オピー | イヴニング・ドレスの女 | 2005年 国立国際美術館所蔵 © Julian Opie
- 6 ミロスワフ・パウカ | BlueGasEyes | 2004年 ©Miroslaw Baika, courtesy of Barbara Gladstone Gallery, NY
- 7 イヴ・サスマン | 浮上するフェルガス | 2006年 ©Eve Sussman / Rufus Corporation, courtesy of the artist / Roebling Hall, NY
- 8 ヤン・フードン | 森村往東 | 2007年 © Yang Fudong, courtesy of the artist / marian goodman gallery / shanghart gallery
- 9 サム・テイラー＝ウッド | スティール・ライフ | 2001年 ©Sam Taylor-Wood, courtesy of White Cube
- 10 ビル・ヴィオラ | プールの反映 | 1977-79年 Photo by Kira Perov © Bill Viola
- 11 鷹野隆大 | 電動ばらばら 2002/2008(上半身) | 2002/2008年 ©Takano Ryudai, courtesy of Zeit-Foto Salon, Yumico Chiba Associates
- 12 小島千雪 | リズミカルム、砂の階 | 2007年 ©Kojima Chiyuki
- 13 ブライアン・イーノ | サーズデイ・アフタヌーン | 1984年 © Brian Eno
- 14 ドミニク・レイマン | Yo Lo Vi | 2006年 ©Dominik Lejman courtesy of Luxe Gallery, NY

STILL / MOTION

近年、液晶モニターをはじめとする映像環境は飛躍的な技術的發展をとげており、以前では考えられなかったような高精細の画面を実現しています。また、映像による表現行為も、20世紀前半の前衛フィルムから1960年代以来のビデオ・アートを経て、社会や環境の変貌に対応して変化してきました。

本展は、最新の映像技術に対応した表現活動を、日本、中国、欧米の作家14名の作品によって紹介しようとするものです。その際、〈スタイル＝静止〉〈モーション＝動き〉という視点から、現在の映像表現に焦点をあてました。それはまた、〈絵画〉と〈映像〉とが交差する場所でもあります。屏風状に配した液晶モニターの中で山水が微かな動きを宿す作品(千住博)、最新作を含むフェルメールをテーマとしたビデオインスタレーションによって、絵画とビデオ映像を往来する試み(森村泰昌)、ビデオの映像によって印象主義的な絵画を再創造しようとした作品(ブライアン・イーノ)、水墨によるアニメーション(チウ・アンション)その他多彩な作品によって、現代の私たちをとりまく映像表現のあり方が鮮明に浮かびあがることでしょう。

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007 三重県津市大谷町11 TEL: 059-227-2100
<http://www.pref.mie.jp/BJUTSU/HP/>

■交通機関ご利用の場合
 津駅(JR線・近鉄)西口より徒歩10分。または津駅西口より三重交通バス循環津駅西口(むつみが丘・つつじが丘経由行き、または総合文化センター行き2分)美術館前下車徒歩1分。
 ■自家用車でお越しの場合
 伊勢自動車道津インターチェンジより約15分、料金所を出られてすぐに左折していただくと、美術館への標識が要所にごございます。駐車場の収容台数は約130台ですが、展覧会によっては混雑のため駐車できない場合もありますので、公共交通機関をご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

◎次回予告：「金比羅宮 書院の美」展 2008年4月26日(土)ー6月8日(日)

